

6カ国語対応

キャリアガイドDVD

コンテンツ活用リーフレット



当冊子は平成24年度キャリアガイド出前セミナー事業として
三重県の委託を受けて特定非営利活動法人愛伝舎が作成しているものです

リーフレット目次

	ページ
キャリアガイドDVDの利用にあたって ……	3
I. 可能性は無限大！ ……	5
①通訳をめざす大学生	
②大手自動車部品メーカーで活躍する会社員	
③小学校・スペイン語の先生	
④コンピューター関係のエンジニア	
⑤ブラジル日本語センターのスタッフ	
⑥日本語のせんせい	
日本の高校について	
II. 深めよう絆／確かな未来をつくるために ……	13
①成功の可能性	
②家族愛の大切さ	
③学校外での学習の大切さ	
④夢を諦めない	
⑤奨学金を活かして夢を叶える	
⑥強い意志で子どもを導く	
⑦家族の絆を大切に	
⑧子どもの得意分野を伸ばしましょう	
⑨母国語も日本語も両方大切にする	
⑩高校を卒業して得られること	
コンテンツの利用例 ……	24

キャリアガイドDVDとは

外国につながる子どもたちが早くから目的意識を持って勉強し、多くの選択肢の中から自分の進路を選び、日本社会で自立し活躍できる社会人になることを願い、平成22年3月に三重県市町 多文化共生ワーキングがガイドブックを作成しました。そして、このガイドブックの活用を目的としてキャリアガイドDVDを三重県が制作しました。さらに平成23年3月、三重県はその続編としてキャリアガイドDVDⅡも制作しました。ここでいうキャリアガイドDVDとは、この2枚のDVDを指します。

キャリアガイドDVDの利用にあたって

1. 外国につながる子どもたちをとりまく環境について

近年、幼少期で来日したり日本で出生したりする外国につながる子どもたちが増加しています。これらの子どもたちは日常会話においては日本人と変わらない日本語を話すことが多く、ともすれば背景にある差異を見逃してしまいがちです。

外国につながる子どもたちが置かれている環境の主な特徴

- 保護者が日本の社会、学校制度、教育事情など、母国との違いをよく知らない。
- 厳しい雇用環境の影響もあり、子どもの家庭教育に目や手が行き届きにくい。
- 母語で会話をする生活環境が多く、家庭での日本語の力がつきにくい。

たとえば、ブラジルの教育制度は公立であれば大学まですべて無料で、高校にも無試験で入学できます。保護者は自分の経験から日本も母国同様に考えて、子どもの受験時期になって初めて高校入学時に大金が必要なことを知ることが多くありました。家族のライフプランのなかに子どもたちの教育を位置づけることが大切なことを知ってもらう必要があります。

また、リーマンショック以降は中高年だけではなく若年層の就労も難しくなり、数か月ごとに短期契約を繰り返し、打ち切りを常に心配しなくてはならないという状況が生まれています。不安定な就労は家庭経済を圧迫し、不安に満ちた生活は家庭が安らぎの場であることを妨げています。生きていくことに必死な保護者は、労働時間も多様で日々疲れており、家庭では母語のみで話し、子どもたちの学校生活の支援や家庭学習習慣形成をすることが難しい状態です。

さらに、学齢期に来日した第二世代の子どもたちが大人になり、家庭を持つようになりました。第二世代は、十分ではありませんが日本語の読み書きができます。しかし、リーマンショック以前の好況時には、高等教育へ進むという将来を選択せず働くことを優先した多くの子どもたちや保護者がいます。キャリア形成に対しての知識を多く持ち合わせていないことが、原因の一つであるといえます。

子どもたちや保護者に対して、早い時期からキャリア形成への支援をしていくキャリア教育が求められます。

2. 母語と日本語

日本語が上達していく子どもたちを前にして、保護者はそれを喜びつつ、母語の維持、アイデンティティの確立について不安をもちます。親子のコミュニケーションがとりにくくなると家族の会話が滞るようになり、互いの心を理解しあうことが難しくなります。親子の会話が少なくなると、外国につながる子どもたちが接する大人は学校の先生だけといっても過言ではありません。大人と話し合う機会が少ないと年齢相応の精神的成長を期待しにくくなってしまいます。

このような悩みをはじめとして、教育についてどこに相談すればよいのかわからずに困っている外国人保護者が多くいます。

DVDでは、母語を大切にしながら勉強している先輩を多く紹介しています。

3. 支援のための手続きについて

支援策の一つとして、DVDでは奨学金について語られています。

外国人家庭の多くが、奨学金申請のための書類準備期間や募集期間の短いことに困っています。多種類の書類を揃える必要があるうえに、仕事を簡単に休めず、平日の行政窓口などへ手続きや応募に出向く時間をすぐにはとれない人もいます。

また、日本語の読み書きが子どもの方が上手なため書類の作成を子どもまかせにしてしまうことが多く、書類不備などの理由で急ぎよ再提出を求められる場合があります。いざという時の早急な相談に乗ってくれる相手が見つけられず、困ってしまうケースもみられます。書類が間に合わなければ奨学金の受給はあきらめなければなりません。

奨学金がとれなかったという理由で、家庭の経済事情を考えて進学を断念し、夢を諦めてしまう子どもが出ないよう、できるだけ早めに奨学金のインフォメーションを出して周知を図っていただきますようお願いいたします。

外国人居住者が多い市町では、「多文化共生課」などの名称で担当部署を置いている場合が多いので、他の機関に相談してみるようアドバイスしていただくのも助けになるでしょう。

I. 可能性は無限大！



①通訳をめざす大学生

背景	柿内ディアナ 21歳 小学校6年生で来日、働きながら定時制高校で学び、大学へ進学
内容	<ul style="list-style-type: none">・来日が、勉強が難しくなる中学校に進学する直前で、日本語の初期指導の取り出し授業のため英語の勉強ができなかった。・友達との日本語での会話や、日本語学習により日本語を覚えていった。・通訳の仕事をしながらかで学ぶことは難しかったが、両立は大切なこと。・大学では英語を学んでいるが、入学した当初は基礎ができていなかった。先生に依頼して勉強した。
メッセージ	勉強することは自分がやりたいことを見つけるために必要なことだ。
メモ	<p>母語と日本語が出来ると、通訳にならなくても特技として就職時にアピールできます。</p> <p>子どもたちは二つの言葉、二つの文化に常に接していることから、海外を身近なものとしてとらえて進路選択に大きく影響を与えることがあります。通訳を目指して勉強していくうちに他に夢が生まれたという先輩も多くいます。(I-②、II-⑤参照)</p> <p>南米の言語は文章構造が英語と似ており、スペルが似た語彙も多いので、母語をもとにすると英語の理解が早いことが多いです。母語と英語と日本語ができることは将来の選択肢を増やします。</p> <p>外国人の日本語資格としては日本語能力試験があり、N1(漢字2000字、語彙10000語程度)、N2(漢字1000字、語彙6000語程度)の合格者は就職の際に優遇されることがあります。</p>

②大手自動車部品メーカーで活躍する会社員

背景	吉原ファビオ浩一 小学校4年生で来日、県立高校から大学へ進学し住友電装へ就職。 父が亡くなり、母子2人暮らし。
内容	<ul style="list-style-type: none">・子どもの教育と持ち家購入資金獲得のために両親が来日を決意。・ブラジルでも日本でもいじめがあった。子どもが辛い思いをしているときは親もつらかった。・親も子もそれぞれが頑張っていることがお互いに頑張るモチベーションとなった。・言葉ができるだけでお金がもらえるので通訳に関心を持った。・高校ではブラジル人であることを知られることが怖かったけれども、大学は留学生が多く、外国人ということを隠さなくてもよくなった。・アルバイトを通して他の仕事にも興味を持ち始め、就職活動で多くのことを学んだ。
メッセージ	どんな仕事がしたいかわからなくても、とにかく勉強を続けることで出来る仕事の選択肢が増えていく。このことは夢が広がるということだ。 保護者の厳しい就労環境、経済環境のなかでも、家族の絆を大切にして学ぶ意味を信じ続けることは大切である。 保護者の教育への信頼が子どもの心の支えとなって前向きな生き方につながる。
メモ	外国人家庭の中には、文化や生活習慣の違いから家庭が教育環境として未熟な場合があります。夜更かし、週明けに休むほどの享乐的な週末の過ごし方、など生活規律の乱れとして改善してほしいですが、厳しい就労環境のなかで保護者が頑張るためには家族の絆が大きな支えとなり、それゆえ団欒、娯楽が家族生活の中心になってしまう傾向にあることもご理解ください。

③小学校・スペイン語の先生

<p>背景</p>	<p>オチャンテロサ 日系ペルー人で13年前に15歳で来日。 高校、大学へ進学。大学院を修了し、スペイン語の先生として学校で働く。</p>
<p>内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「大学に行く」という目標を立てて、日本語の勉強をした。 ・大学では心理学を学んだ。 ・大学院では本を読んで研究したが、自分の目で実際の子どもたちの現状を見たいと思い、教師の道を選んだ。 ・外国につながる子どもたちが日本語だけでなく、日本の学校で楽しく勉強できるようにしたい。そのためにポルトガル語や英語も覚えた。 ・教職員ではできない母語での支援に子どもたちが喜び、学校でもたいへんありがたく思っている。(教頭・談) ・バイリンガルであるため、スペイン語も教えている。両方の文化を知っているため、言葉だけでなく文化も伝えられる。
<p>メッセージ</p>	<p>「外国人だから…」ということ、できないことの原因にはしないほしい。</p> <p>何でも良いので目標を立て、それに向かって努力することで、やりたい仕事を見つけることができる。(=可能性が広がる)</p>
<p>メモ</p>	<p>キャリアガイドP.8参照</p> <p>三重県の場合、採用条項に「日本国籍を有しない人を採用する場合は、任用の期限を付さない常勤講師とします。」とあり、外国籍でも登用の道が開けています。(ただし制限条項などがある場合もあります。)</p> <p>国籍条項が設定されている職種(消防士、警察官など)の職場体験を外国につながる生徒が希望した場合には、現実を受け止められるよう細心の配慮をしたうえでの配置をお願いします。</p>

④コンピューター関係のエンジニア

背景	<p>新開弾 日本では高校卒業後すぐに工場で働いた。 夢をかなえるためにブラジルに帰って大学に入り直し、ブラジルNTTでサポートエンジニアをしている。 現在大学2年生（メモ参照）、情報処理の勉強をしている。</p>
内容	<ul style="list-style-type: none">・初めは日本語がほとんど話せなかった。・中学校の日本語の先生が一生懸命日本語を教えてくれたお陰で高校受験に成功した。・ブラジルに帰国しても、自分がこれまで学んだことが無駄ではなかったことが分かった。・日本の文化を知ったことで日本人に対する接客も上手くできる。・現在も夢を持っている。難しいがあきらめなくて頑張りたい。
メッセージ	<p>夢のない人生は寂しい。 夢を実現するにはたくさんの壁があるが、それを乗り越えると良いことがたくさんある。</p>
メモ	<p>ブラジルには夜間大学も数多くあり、働きながら大学へ通う学生が多数います。 日本でも多様な進路選択が可能です。外国につながる子どもたちは母国の教育システムを利用することもできます。そのためには、日本語だけでなく母語をも育てることが自分の未来の選択を広げるということを本人に教えてください。</p>

⑤ ブラジル日本語センターのスタッフ

背景	<p>荻谷パトリシエエリ</p> <p>5歳のときに来日して、18歳まで過ごした。</p> <p>中学では吹奏楽部でサクソフーンを担当、部活の先生が気にかけてくれた。</p> <p>現在は日本での経験を活かして、日本語教室でサポートしながら予備校に通い、大学を目指している。</p>
内容	<ul style="list-style-type: none">・高校2年で仕事を始めたため、中退。・ブラジルに帰国して高校卒業資格をとり、大学受験中。・ポルトガル語がわからなくて卒業資格をとるときに困ったが、何時間も勉強した。・勉強は頑張れば頑張るほど報われるものなので頑張るつもり。
メッセージ	<p>日本の学校はいろいろな教科や行事があり、よかった。</p> <p>今後日本に住む子も、ブラジルに帰る子も、本気で勉強してほしい。</p> <p>勉強をして損をすることは絶対はない。</p> <p>自分で認められる（自信が持てる）職業を持つことの良さを知ってほしい。</p>
メモ	<p>教育制度は国によって様々です。</p> <p>ブラジルではふつう、小学校から高校まで午前だけ、午後だけという2部制で授業が行われています。子どもたちが学習する教科も日本のように多くありません。</p> <p>小学校6年間は義務教育で、4年間の中等教育は義務教育でない国もあります。</p> <p>子どもたちの成育歴を踏まえた支援をすることが大切です。</p>

⑥日本語のせんせい

背景	<p>辻本美知恵 4歳から13歳まで三重県津市の保育園、小中学校に通った。 ブラジルの日本語学校で日本語を教えながら大学にも通っている。</p>
内容	<ul style="list-style-type: none">・日本にいたことで自然に日本語を身に付け、伝統や文化も学ぶことができたことで、今、生徒に言葉だけでなく文化も教えることができる。・将来は日本語学校を運営して、ブラジルに帰国した子どもたちが日本語を忘れないように教えたい。
メッセージ	<p>日本の学校は体育祭、文化祭、運動会などの行事、音楽や調理実習など があって楽しかった。 日本の学校で一所懸命勉強することは将来の役に立つことだ。</p>
メモ	<p>日本の学校で経験する学校行事や実技系教科を母国にはできない経験であると知ることは、ふだん外国人であることをマイナスにとらえやすい子どもたちにとって明るい材料となります。</p> <p>母国と日本との二つの文化を知り、二つの言葉を使うことができるのは子どもたちにとって日常の生活そのままのことなので、このことが未来の可能性を広げるということをあまり意識していないようです。</p> <p>早い時期から二言語話者のメリットを伝えて母語と日本語の向上を心がけるよう支援するとよいでしょう。</p>

日本の高校について

内容

高校に進むことで将来の夢が広がる

<通訳を目指す高校生①>

あきらめずに頑張ることで得ることが多い。
更に違う国に行って勉強・仕事がしたい。

<大学に進学する高校生>

初めは日本の学校に慣れず苦勞した。
高校ではいろんな学科があり、自分の勉強したいこと、身に付けたい技術を重点的に学ぶことができる。
将来は、ポルトガル語・日本語・英語を極めて、それらを使って働きたい。

<通訳を目指す高校生②>

初めは泣いたりしたが、頑張って日本語を覚えた。
中学のときは高校は厳しいところだと思っていたが、そんなに厳しくなくて楽しい。

<メディア関係の仕事を目指す高校生>

最初は日本語を全く話せなかったが、今は友達がいっぱいいる。

<教頭先生の話>

現在47名の外国人生徒が在籍（全校生徒の1割以上）
毎日の授業を通じて、高校生としての知識・学力を身につけている。
日本語に慣れていない生徒のために日本語の特別授業を設けている。→高校卒業後に進学・就職するための力を身に付けることができる。
授業やクラブ活動で多国籍の友人を作ることが出来る
高校時代で、母国語・日本語・英語を身に付けることができる→日本で生きていく上で大きな力になる。

II. 深めよう絆

確かな未来をつくるために



①成功の可能性

背景	幼少期に来日し、ブラジル人学校から日本の大学に進学。 エミレーツ航空で客室乗務員として勤務している。
内容	<ul style="list-style-type: none">・母語以外の言葉ができることがグローバル企業への就職を可能にした。・グローバル企業では自分が違う国から来ているということはいいことだと見られる。・仕事を通してチャンスを与えられ、さらに成長することができる。・大学へ行くことを子どもなりに迷ったが、父親の言葉で決意した。・家庭では母語で話すよう努力して母語維持を心がけた。
メッセージ	外国人が日本語を話せること、日本文化を知っていることはメリットである。 母語を忘れないようにして、二つの言葉を習得してほしい。 いっしょうけんめいがんばることで夢を見つけることができる。
メモ	<p>早い時期からなりたい職種を意識すると、その夢の実現に向けて学習にも力が入ります。中学校では職場体験がありますが、日本の子どもたちのように保護者を通して多様な職業を知る機会がほとんどないので、気にかけてあげてください。</p> <p>進路相談などでは全日制、定時制、通信制という課程の紹介とともに、このように目的意識をもって夢の実現に向かえるような学科（とくに工業科、商業科、家庭科、など専門学科や総合学科）がある高校も併せてご紹介いただくと子どもたちの進路選択の場が広がっていきます。</p>

②家族愛の大切さ

背景	在日20年 両親と3人の子ども、おなかに4人目 持ち家を購入
内容	<ul style="list-style-type: none">・日本の学校は、給食や掃除など子どもがしなければならないことが多いが家庭生活中で役立つことも教えてくれる。・子どもの役割は勉強すること、親の役割は家族を養うこと。後で学ぶことは難しい。・親の愛情や絆を子ども中心の生活を通して子どもは感じ、感謝している。・子どもを大学に入れたいので貯金をし、奨学金制度の利用も考えている。・学校行事に参加するようにしている。
メッセージ	家族の愛情と絆がさまざまな壁を一緒に乗り越える力となっている。 学校生活で気になることは先生と話し合っ解決するようにしている。
メモ	<p>日本の高校、大学へ進学するにあたっては入学前後にまとまった現金が必要になりますが、外国人家庭では口コミで情報を仕入れることが多いため、正確な知識を持っている人は多くはありません。</p> <p>奨学金の申込時期は受験時期よりかなり早く、書類整備が奨学金も教育ローンも煩雑なことなど、すぐに対応できないこともあります。</p> <p>子どもの将来設計に関わることは長期のプランをたてて資金を貯めていくことなども勧めると安心です。</p>

③学校外での学習の大切さ

背景	<p>16年前に来日。父が留学、そのまま日本で就職し、家族を呼び寄せた。子どもたちは日本の学校へ通っている。 学ぶ力をつけるために学校以外に塾などにも通わせている。</p>
内容	<ul style="list-style-type: none">・日本が母国より環境がよいので子どものために日本を選んだ。・塾やスポーツ教室を活用して、励みになる目標を持たせて学習させている。・家庭での子どもたちの人生の一番の仕事は勉強だと親が考えている。・ブランド物や自分の服を持つよりも子どもたちのトロフィーが自分の誇りである。・コンクール、試合、友達との交流や送迎、やっているうちに励みになる。
メッセージ	<p>子どもの力を伸ばすためにできることが親にはたくさんある。 子どもたちの力に加えて親からのサポートが子どもの力を大きく伸ばす。 学習の仕方を覚えることでたくさんの選択肢が選べるようになる。 どこでも生きられる人になってほしい。</p>
メモ	<p>「どこでも生きられる人になってほしい」という保護者の願いが、子どもを塾やスポーツ教室に行かせるという教育的行動になっています。その場の思いつきでない教育方針であることを子どもたちが理解すると、簡単に辞めることも少ないでしょう。続けることの大切さを教えてくれます。</p>

④夢を諦めない

背景	<p>4年前10代で来日。 来日当初、自分にとって働いて収入を得ることが一番いい選択だと思った。 家族で学ぶ意味を話し合い、学校へ再入学することにした。</p>
内容	<ul style="list-style-type: none">・工場で働いて、他の人と話をしたときに話についていけない自分がいたことで、働く上で大切なことが何かということに気付いた。・学び直しをすることは子どもの気持ちだけでは難しく、親のサポートが必要だ。子どもが挫折した時は親の出番。
メッセージ	<p>家族が学ぶ意味を話し合い、そのうえで勉強すれば夢に近付ける。</p>
メモ	<p>学び直しのケースです。 職場の人との会話のなかで自分が未熟だと気づき、周囲の友人たちが収入のほとんどを車やおしゃれに使ってしまうことに疑問をもちました。このような気づきをいつも誰もができるとは限らないので、将来社会に出たときにどのような知識や態度が教養として求められるかを知らせていくとよいでしょう。 また、学び直しの機会が増えたとはいえ、それなりの覚悟や家族の協力が欠かせません。いったん入った高校や大学などを簡単にやめてしまわないよう、また、やめたくなったときにはまず周囲に相談するよう助言してください。</p>

⑤奨学金を活かして夢を叶える

背景	2000年来日。 4人の子どもは皆公立の学校へ通った。 言葉の壁があったが、それを乗り越えて日本になじんだ。
内容	<ul style="list-style-type: none">・経済的な問題は学校のサポートや奨学金に支えられた。・夢は成長のなかの出会いで「サッカー選手」から高校の「英語教師」へと変わった。・人間として生きる上で大切なことは規則を守ることとお互いを尊敬することで、子どもには日本の社会で役立つ人になってほしい。
メッセージ	家庭の教育に対する考え方が大切である。 進路を決める前に学校に相談しよう。
メモ	大学で奨学金を受けるには、内申が基準以上であることが必要な場合があります。(日本学生支援機構の第一種奨学金の場合など) 高校生で利用できる制度は、「三重県高等学校等修学奨学金」があります。 三重県環境生活部多文化共生課からも大学、看護学校等で医療・看護を学ぶ外国人学生に対して「医療・看護系外国人学生奨学金」の募集があります。この奨学金は貸与ではなく給付です。

⑥強い意志で子どもを導く

背景	母が40歳のときにデカセギで来日し、20年間工場で勤めた。持ち家の購入資金とこどもの教育のために来日した。
内容	<ul style="list-style-type: none">・子どもが辛い思いをしたときは親として辛かった。息子がかんばっているから自分もがんばれた。・自分の選ぶ道は自分で選ぶ、そのために教育は大切だ。
メッセージ	外国人だけでなく日本の人も自分の子どもを信じて、いいことはたくさんあると教えてほしい。
メモ	<p>DVD-Iの②と対を成すコンテンツです。Iでは子どもの立場から、このII-⑥では保護者の立場から語られています。</p> <p>両方を視聴することで、思春期のときのアイデンティティの揺れなど、子どもの成長につれて双方がどのような思いで過ごし、どのように過ごすことで乗り越えたのか読み取ることができます。</p> <p>厳しい就労環境のなかで生活が押しつぶされそうになっても、保護者の信念を子どもが理解して辛さ寂しさを克服し、それをまた保護者が感謝の念をもって子どもの気持ちによりそう循環のあたたかさを感じることでしよう。</p>

⑦家族の絆を大切に

背景	日本で両親が結婚、3人の子どもがいる。 両親が夜遅くまで働いている。
内容	<ul style="list-style-type: none">・両親への感謝が勉強へのモチベーション。・落ち着いて学ぶ環境を子どもに与えることが親として必要。・夜遅く帰宅することで生活リズムが乱れやすくなるので努力している。
メッセージ	子どもが夢に向かって努力するためには親のサポートがないと難しい。
メモ	<p>「親の背を見て子は育つ」ということわざとおり、生活リズムを整えようと努力する両親の姿に子どもたちが勇気づけられ、夢に向かっていきます。勉強を教えることだけが家庭学習ではありません。</p> <p>日本語を話せない保護者は、子どもの教育が心配でも実際に教えることが出来ないで、「勉強しなさい」と小言に終始してしまう傾向があります。そういう状況では勉強は強いられて行うものでしかないことを保護者に気づいてもらわなければなりません。</p> <p>子どもが学習する時間には、保護者や兄弟がテレビを見ない、ゲームをしない、など学ぶ環境を作って保護者の応援している気持ちを伝えることから始めるよう提案しましょう。</p>

⑧子どもの得意分野を伸ばしましょう

背景	子どもたちが芸術分野やスポーツで得意なことを応援している。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・バスケットボールの才能を伸ばすことで特技となり、推薦入学できた。 ・地域の行事にも差別されることなく参加している。 ・プロになってアメリカNBAに入りたい。(息子) ・ピアノは情緒豊かになる。通訳か医者になりたい。(娘)
メッセージ	勉強だけでなく得意なことを伸ばすことでも子どもは伸びていく。
メモ	<p>スポーツ少年団や中学校の部活動、習い事をきっかけに、スポーツや楽器などに熱中して勉強をおろそかにする子どもを心配する保護者がいます。</p> <p>自分の好きなことは熱心に工夫し努力をするので、ますます上手になっていきます。</p> <p>芸術は、技術だけでなく感性や個性を重視するため自己肯定感を育み、自分を発揮していくことができます。</p> <p>スポーツでは技術の習得・上達のために比較工夫するなど、教科教育とは違う面での能力を伸ばすことができます。</p> <p>このような効用も人格形成のうえでは大事なことです。</p> <p>しかしながら、大人は専門家（プロ）になれるのは一握りの人間しかいないことを知っています。子どもは自分の実力を理解しても、現実から目をそむけて淡い夢を抱き続けがちです。子どもの興味関心を認めながら、成長に合わせて現実とすりあわせていくように支援していくとよいでしょう。</p>

⑨母国語も日本語も両方大切にする

<p>背景</p>	<p>1993年、2歳で来日。公立小学校を卒業後ブラジル人学校へ通う。当初3年のつもりが17年の滞日となった。 現在はブラジルに在住し、大学で国際貿易を学びながら日本語教師をしている。</p>
<p>内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・異なる文化、異なる言語のなかで過ごすメリットを受けながら母語レッスンも受けて母語維持をした。 ・親としての心がけは子どもの教育に投資することだ。
<p>メッセージ</p>	<p>日本語ができることでいろいろなチャンスが生まれる。 人間としてのバックグラウンドが豊かになった。</p>
<p>メモ</p>	<p>母国に帰るから、ということを利用して日本の教育や日本語に対してあまり熱心でない家庭もあります。日本での経済事情や母国の家族の状況次第で帰国を考えている場合は、帰国時期が決まらずにずるずると日本に住み続けることも多々あります。</p> <p>このような場合、いちばん犠牲になるのは子どもたちです。保護者にとっては故郷であっても、母国の記憶が残っていない子どもたちにとっては引越し、転校でしかありません。</p> <p>言語の発達と学習は密接な関係がありますから、学習する言語の発達が遅れると学習に支障が出ます。抽象思考を深めていくためには、日本の学校で学んでいるときには日本語を「学習するための言語」と割り切って考えることが現実的です。母語で学習していなくても教科学習で教育の基礎（学習方法や学習習慣の形成など）をしっかりと築いていれば、いずれ母語で学習することになったときにも役に立ちます。</p> <p>日本の教育システムで高校まで過ごし、母語を学ぶために大学へ進学する例もしばしば見かけます。</p>

⑩ 高校を卒業して得られること

内容

- 飯野高校定時制のメッセージ
 - 二つの時間帯を選べる
 - 4年の課程を3年で修了することもできる
 - 奨学金の紹介と手続きの補助
- 北星高校からのメッセージ
 - 勉強を続ける大切さを知ること
 - 日本語の力が上がる
 - 日本で生きていくための基礎基本ができる
 - 定時制と通信制が一体となった学びができる
 - 希望とチャンス子どもたちに与えることが大人の責任

コンテンツの利用例

外国につながる子どもたちに想定される問題についていくつか事例をあげ、その問題について示唆する内容があるコンテンツを例示しました。このDVDを利用することで保護者の不安に寄り添い、子どもたちの将来への展望を見出し、希望を与えることに少しでも寄与できれば幸いです。

外国につながる子どもたちが意欲をもって学習に取り組み、それぞれの夢に自信をもって向き合えるようになることを願っています。

表に空欄を設けましたので、ご利用の際に各校の実情に合わせてご利用ください。

想定される問題		DVD I	DVD II
1	経済的に苦しい	②母子家庭 ④本国で働きながら大学へ通っている	⑤学校のサポート、奨学金 ⑦夜遅くまで働いた両親
2	勉強する意味がわからない	⑤将来報われる時がくる ⑥できることが増えればやれることも増える	②大人の役割、子どもの役割 ④お金より大事なことがある ⑤職業選択肢を広げるために
3	仕事が忙しくて子どもと関わる時間が取れない		⑥親の意志は子どもに伝わる ⑦サポートの仕方はいろいろ
4	子どもがスポーツに夢中		⑧才能を伸ばすのも教育の一つ
5	母語を忘れてしまわないか心配		①母語を話す努力をした ③日本の良い環境で学べるメリットを活かす ⑨異なる文化や言語で過ごすメリットもある

6	アイデンティティのゆらぎについて	②思春期には外国人と知られることがこわかった ③マイナスに考えないようにしよう	
7	挫折やいじめ	①助けてくれる人もいる ②ブラジルでも日本でも	④家族と話し合っ解決する ⑥子どもとの絆をとおして
8	どこに相談したらいいのかわからない	①教委で通訳した経験	⑤学校のサポート
9			
10			
11			
12			

**キャリアガイド DVD コンテンツ利用リーフレット
〈第一版〉**

作成 平成24年6月28日
特定非営利活動法人 愛伝舎
三重県鈴鹿市算所3丁目9番50号
近藤ビル5階
050-3532-9911

※随時、情報を取り入れながら改訂していきたいと考えています。
ご意見、ご質問などお寄せください。